

## 船舶事故調査報告書

平成27年4月9日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	火災
発生日時	平成26年9月5日 14時50分ごろ
発生場所	広島県江田島市津久茂瀬戸北方沖 笠磯灯標から真方位069° 1,520m付近 （概位 北緯34° 16.07′ 東経132° 25.71′）
事故調査の経過	平成26年10月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 実栄丸、17.09トン HS2-1671（漁船登録番号）、個人所有 14.31m(Lr)×4.03m×1.30m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和55年5月26日
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年9月30日 免許証交付日 平成24年9月5日 （平成30年8月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室及び操舵室が焼損
事故の経過	本船は、船長及び甲板員4人が乗り組み、津久茂瀬戸北方沖を南進中、船長が、平成26年9月5日14時50分ごろ、船尾甲板付近にいた甲板員からの報告を受け、主機を停止した後、操舵室右舷側の窓から機関室の方を確認したところ、機関室右舷上方の窓から黒い煙が出ており、引き続き、激しく炎が噴出した。 船長及び甲板員は、火勢が強くて消火できず、船首甲板及び船尾甲板に別れて避難し、救援に来た僚船に救助された。 本船は、僚船により消火活動が行われて火勢が弱まった後、近くの砂浜までえい航され、消防車によって消火活動が行われて鎮火した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	本船は、機関室の主機の右舷船尾付近が最も激しく焼損していた。 船長は、午前中、本船を運航する際、機関室内の点検を行ったが、

	<p>燃料油（軽油）の漏れや異臭等を認めなかった。</p> <p>本船は、平成23年9月頃に中古で購入された。</p> <p>（付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船の焼損状況、写真2 操舵室及び機関室の焼損状況、写真3 機関室右舷船尾側の焼損状況 参照）</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、津久茂瀬戸北方沖を南進中、機関室から出火したものと考えられるが、出火に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、津久茂瀬戸北方沖を南進中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>

付図1 事故発生場所概略図

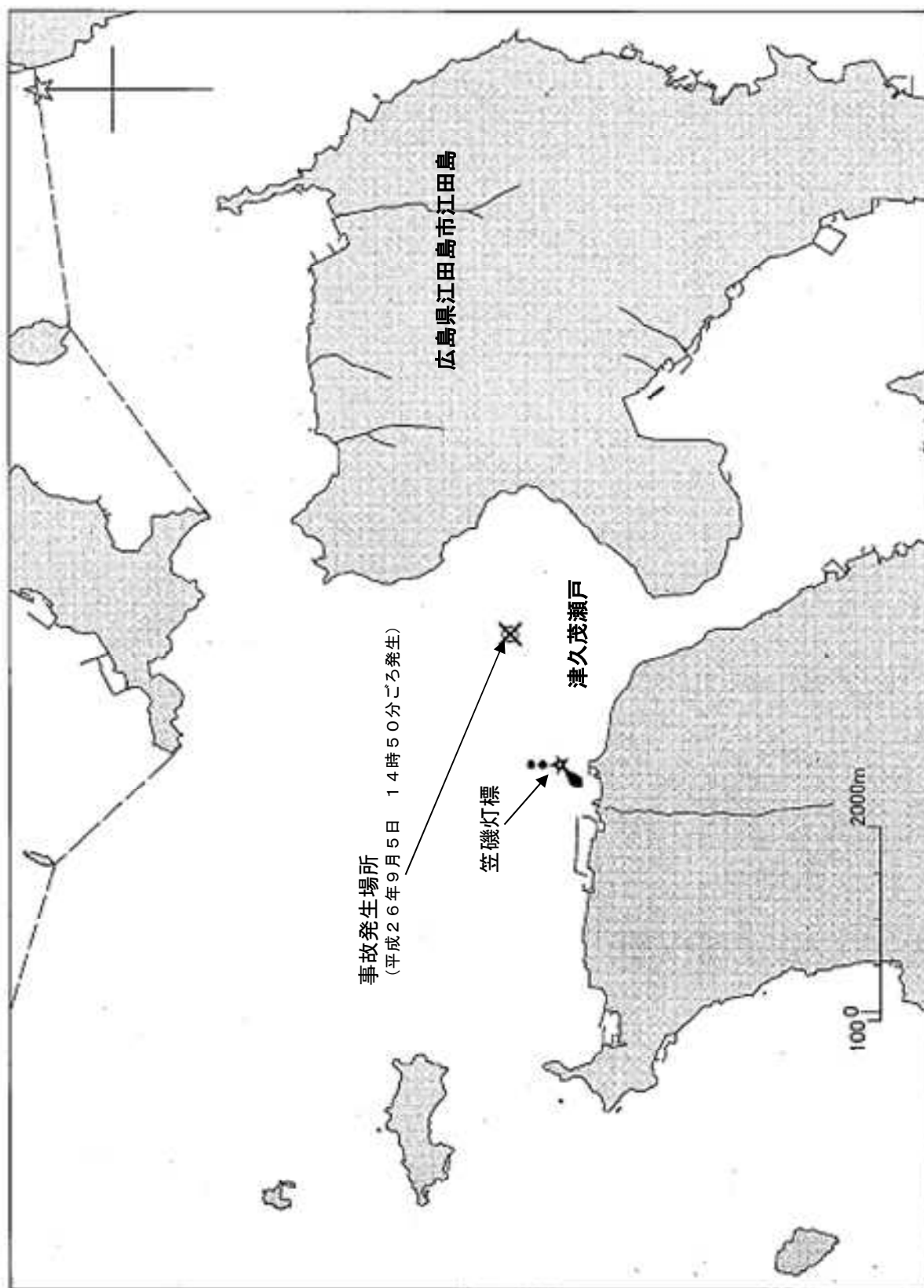


写真1 本船の焼損状況



写真2 操舵室及び機関室の焼損状況



写真3 機関室右舷船尾側の焼損状況

